

時事文翻訳添削ノートから

私は毎年授業で時事文翻訳の添削を行っています。翻訳に挑む学生さんたちに具体的な事例に沿って役に立つ情報をご紹介します。

情報 19

P56の5行目に“竟”があります。予想に反した意外な気持ちを示す語には、このほか、“倒”“却”などがありますが、どう使い分けるのでしょうか。

“倒”は「易しいと思ったら難しかった」とか「温かいと思ったら寒かった」とか、予想と逆の結果がでた場合、もしくはそれに準ずるほどの強い意外性を伝えたい場合に良く用いられます。

“却”は推測をはずされた場合のちょっと意外な気持ちを示すときに使います。“えっ?”というようなフィーリングです。

“竟”は予想をはるかに上回る程度に達したときに良く使います。

もちろん、三者の領域は互いに交わる部分があるのは避けられません。

情報 20

P58の行目に“感到”があります。書き言葉の常用語で、多くは後ろに2音節の形容詞を置いて、全体で4音節のリズムを作り、語調を整えます。

話し言葉では、“感到”の代わりに“很”を置けば成立してしまいます。

例：感到骄傲／感到舒适／感到幸福／感到委屈

→ 很骄傲 / 很舒适 / 很幸福 / 很委屈